

(お知らせ)

定期検査中の福島第二原子力発電所3号機における
「B系原子炉自動スクラム」警報の発生について

平成17年11月19日
東京電力株式会社
福島第二原子力発電所

当所3号機（沸騰水型、定格出力110万キロワット）につきましては、平成16年12月2日より第13回定期検査を実施しておりますが、平成17年11月19日午後1時20分頃、「B系原子炉自動スクラム*¹」の警報が発生いたしました。

当該警報は、タービンバイパス弁*²他の機能検査終了後の安全処置*³の復旧を誤ったことにより、誤警報が発生したものです。その後、当該安全処置を再度実施したことにより警報は解除されました。

今後、安全処置の復旧を誤った原因について調査いたします。

なお、本事象は警報のみ発生したもので、全制御棒は全挿入の状態であり安全上の問題はありません。また、これによる外部への放射能の影響はありません。

以 上

* 1 : B系原子炉自動スクラム

原子炉を緊急停止するための信号が片系だけ発生した状態であり、制御棒は動作しません。スクラム信号はA・B両系が同時に発生することで制御棒を全挿入し、原子炉を緊急停止させます。

* 2 : タービンバイパス弁

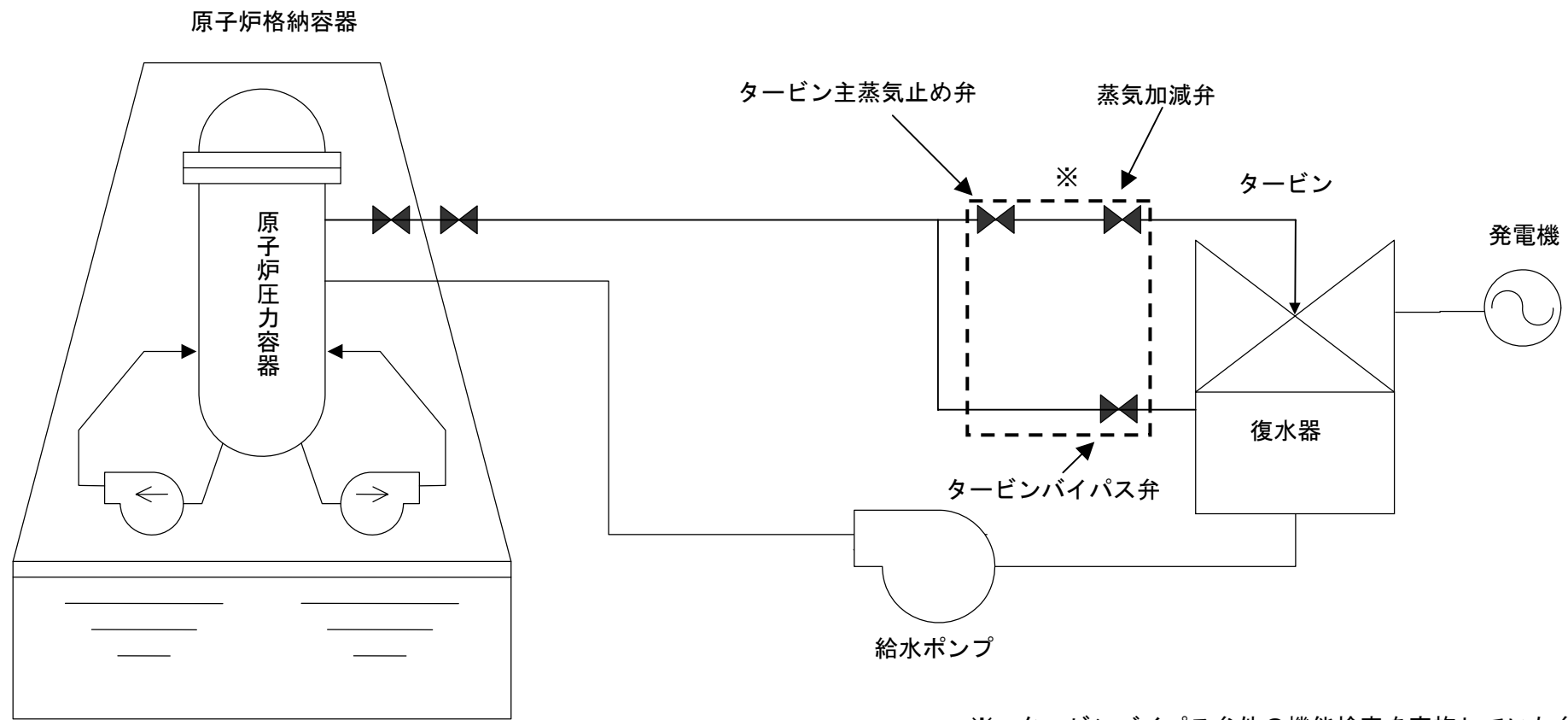
送電系統の事故時などにタービンを保護するため、主蒸気を復水器に直接送るための弁。

* 3 : 安全処置

設備の安全などを確保するために行う処置。

(お問い合わせ先)

福島第二原子力発電所
広 報 部
TEL 0240-25-1353



※ タービンバイパス弁他の機能検査を実施していた弁

概略系統図